

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は基調として増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

前回調査からの主要変更点

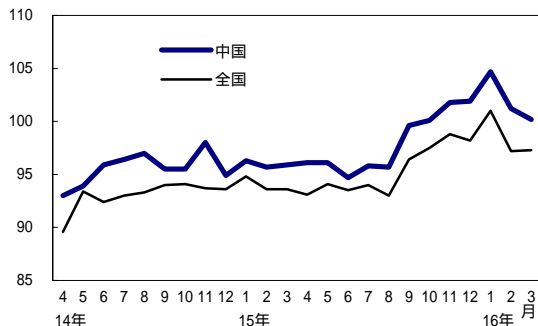
| | 前回(平成16年2月) | 今回(平成16年5月) | |
|------|-----------------------------|-------------|--|
| 景況判断 | 緩やかな回復がみられる | 回復している | |
| 個人消費 | やや弱含み | おおむね横ばい | |
| 雇用情勢 | 依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている | 改善 | |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は基調として増加している。

化学は、自動車向けが国内・アジア需要とともに好調であり、液晶モニター製造で使用される酢酸ビニルモノマーの伸び等も寄与したことから増加している。鉄鋼は、アジアへの輸出が好調に推移していることに加え、国内の自動車、造船、工作機械向けが堅調なことから増加している。輸送機械は、国内販売及び輸出が好調なものの、高水準であった前期との比較では減少している。一般機械は、前倒し生産の影響で3月値が大きく減少しているものの、四半期では半導体や自動車関連向けに動きがあり増加している。電子部品・デバイスは、高機能携帯電話やデジタル家電向けの液晶素子等が好調であることから、更に増加が続いている。

鉱工業生産指数(12年=100、季節調整値)



(備考) 平成16年3月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率)(%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | 出荷 | | 在庫 | |
|-----------|--------------|-------------|-----------|-----------|-----------|----|--|
| | | 10~12 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 | 1~3 月期 | | |
| 化学 | 17.6 | 2.0 | 8.4 | 5.9 | 5.1 | | |
| 鉄鋼 | 12.1 | 0.2 | 6.2 | 2.3 | 8.9 | | |
| 輸送機械 | 12.0 | 11.8 | 10.8 | 19.5 | 24.7 | | |
| 一般機械 | 10.4 | 16.8 | 2.8 | 1.9 | 3.4 | | |
| 電子部品・デバイス | 7.6 | 15.1 | 12.7 | 12.7 | - | | |
| 鉱工業 | 100.0 | 4.4 | 0.7 | 2.4 | 4.6 | | |

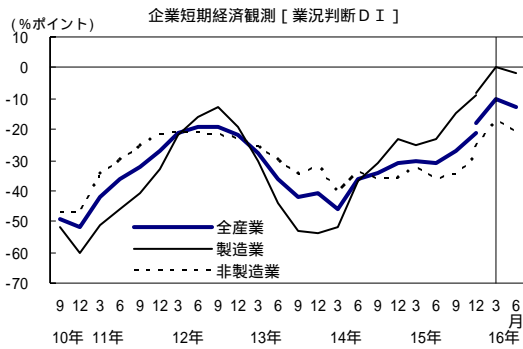
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

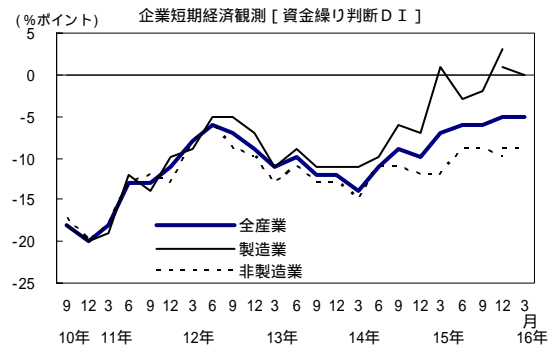
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

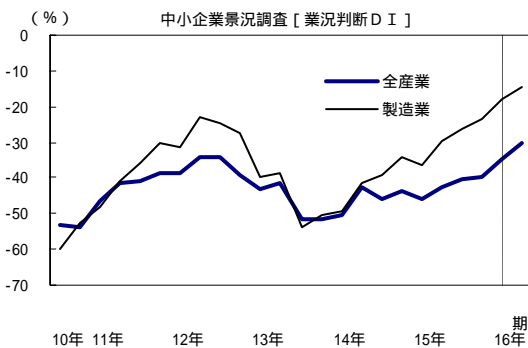
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「船舶やエンジンの受注は好調であるが、鋼材の値上がりや円高などの不安要因もみられる (輸送用機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

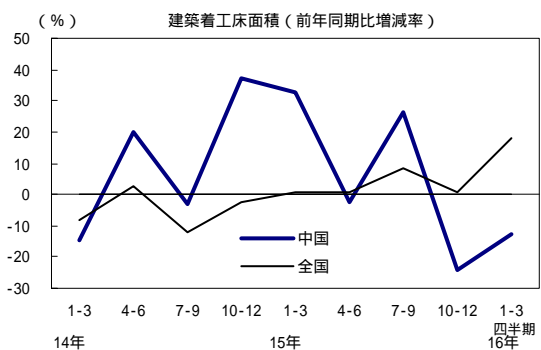
企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

| | 15年度実績見込み | 16年度値 |
|------|-----------|-------|
| 全産業 | 28.4(4.1) | 0.1 |
| 製造業 | 50.8(6.6) | 1.7 |
| 非製造業 | 5.8(0.6) | 2.8 |

(備考) () は前回 (12月) 調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。



(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

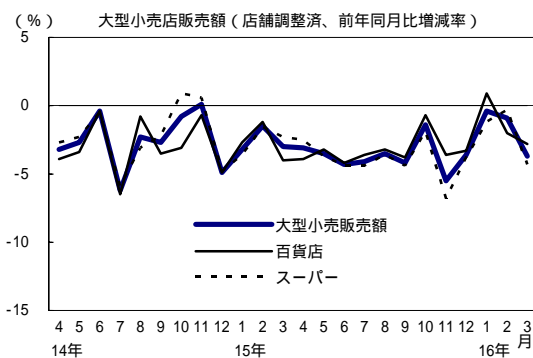
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は初売りやクリアランスセールで衣料品が好調だったほか、ブーツやバッグを中心に身の回り品が大きく伸び、22か月ぶりに前年を上回った。2月は主力の衣料品で売場を縮小した店舗が出たため、再び前年を下回った。3月は祝日が週末に重なったのに加え、中旬以降の低温で春物衣料の動きが鈍く、2か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、中国地区の4月の売上高は、前年同月比で2.4%減となっている。

スーパーは、売上の半分を占める飲食料品が2月にやや上向いたほかは振るわず、16か月連続の前年割れが続いている。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

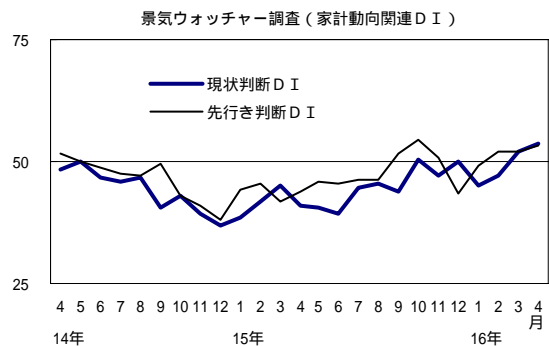
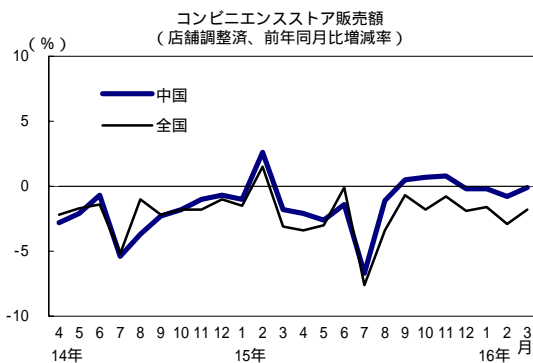
「総体的に販売数量が落ちている、大きな原因は消費税総額表示に伴う割高感が影響しているように思われる。今までの売上不振原因であった単価の下落やBSE、鳥インフルエンザとは要因が大きく違ってきている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

| | 15年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 16年1-3月 |
|----------|---------|------|--------|---------|
| 大型小売店 | 3.6 | 3.9 | 3.5 | 1.7 |
| 百貨店 | 3.8 | 3.5 | 2.6 | 1.2 |
| スーパー | 3.6 | 4.1 | 4.1 | 2.0 |
| コンビニ | 2.1 | 2.5 | 0.4 | 0.4 |
| 景気ウォッチャー | 40.3 | 44.6 | 49.3 | 48.1 |

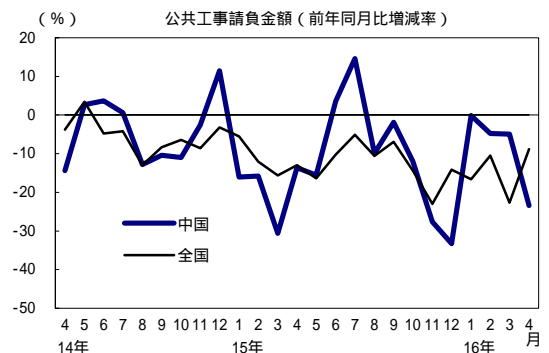
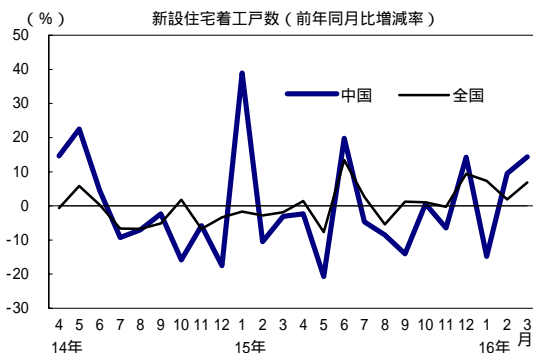
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

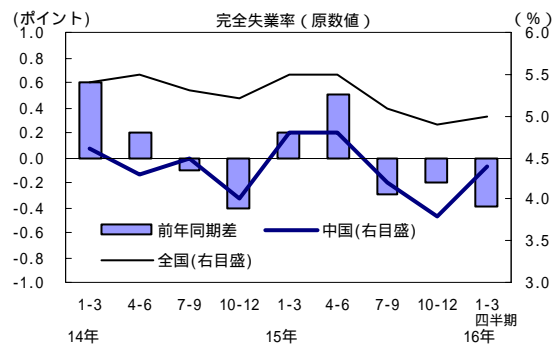
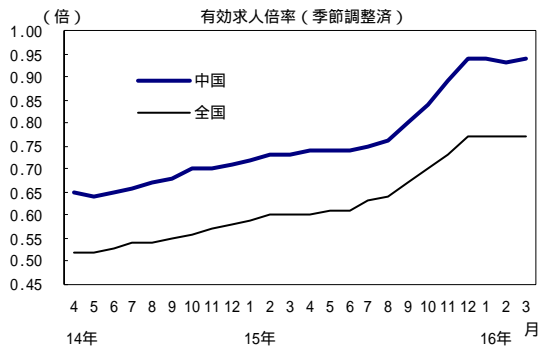


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

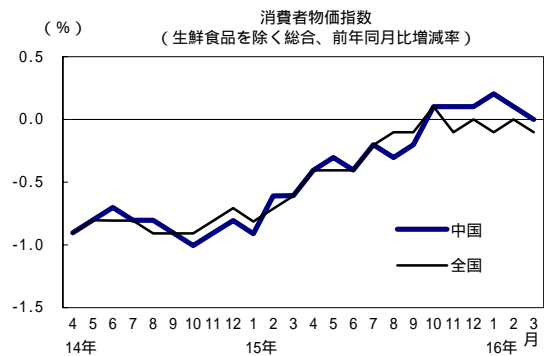
「求人数は増えているが、臨時や派遣、請負の求人増加が目立つ(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はやや上昇している。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|------|--------|---------|-------|
| | 15年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 16年1-3月 | 16年4月 |
| 倒産件数 | 217 | 166 | 143 | 140 | 61 |
| (前年比) | 1.4 | 33.1 | 43.7 | 40.2 | 11.6 |
| 負債総額 | 844 | 552 | 331 | 559 | 170 |
| (前年比) | 75.8 | 35.0 | 58.2 | 63.8 | 40.3 |



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・国内は自動車や造船など製造業向けを中心に、輸出は中国向けを中心に堅調に推移しており、高操業継続しているため景況感に変化はない(鉄鋼業)

<先行き>

・円高進展も一服している中で、既存の受注先に加えて、新規受注先の獲得も次第に進んでおり、当面受注量は増加基調を維持できる。設備投資も拡大見込みである(金融業)

